

平成28年度「経営力向上・IT基盤整備支援事業」
第4回業種の垣根を越えたデータ連携システム整備委員会

次世代企業間データ連携調査事業事務局

2017年8月28日（月）

本日のアジェンダ

1. 開会

1. 中小企業庁挨拶 中小企業庁経営支援部長 高島 竜祐
2. 委員長挨拶 明治大学教授 岡田 浩一
3. 事務局挨拶 ITコーディネータ協会会長 澁谷 裕以

2. 事業全体概況

3. 部会活動報告

1. 技術部会報告
2. 実証プロジェクト部会報告

4. 普及に向けた課題の提案

5. 普及部会の立ち上げの提案

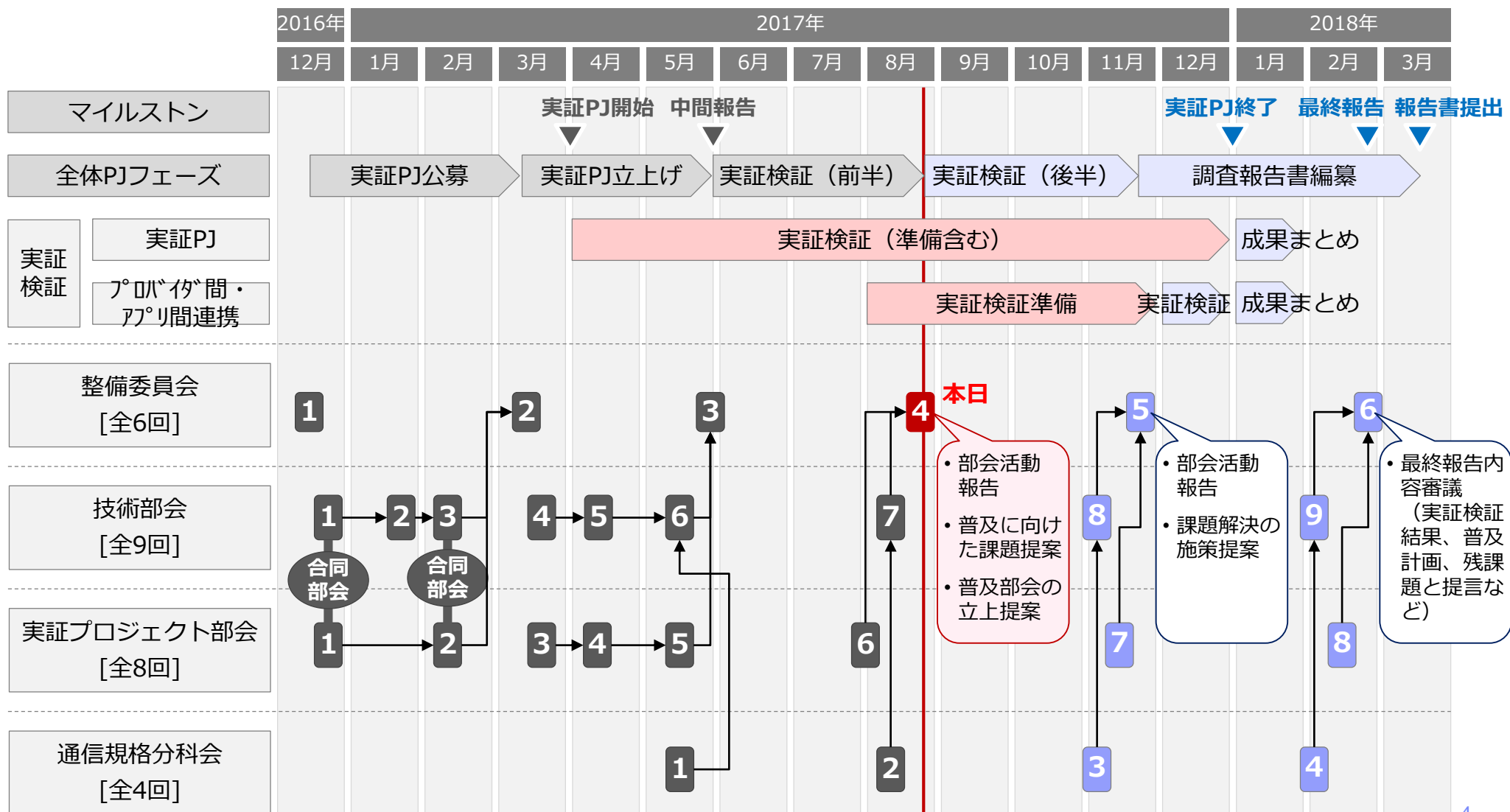
6. 閉会

1. 開会

2. 事業全体概況

2. 事業全体概況

データ整備委員会は、年度末の最終報告書取りまとめに向けて、本日含めて残り3回開催予定です。各部会での議論を基に、実証プロジェクトの進捗を確認し、事業終了後の普及に向けた体制と取組について審議していただきたく、お願いします。

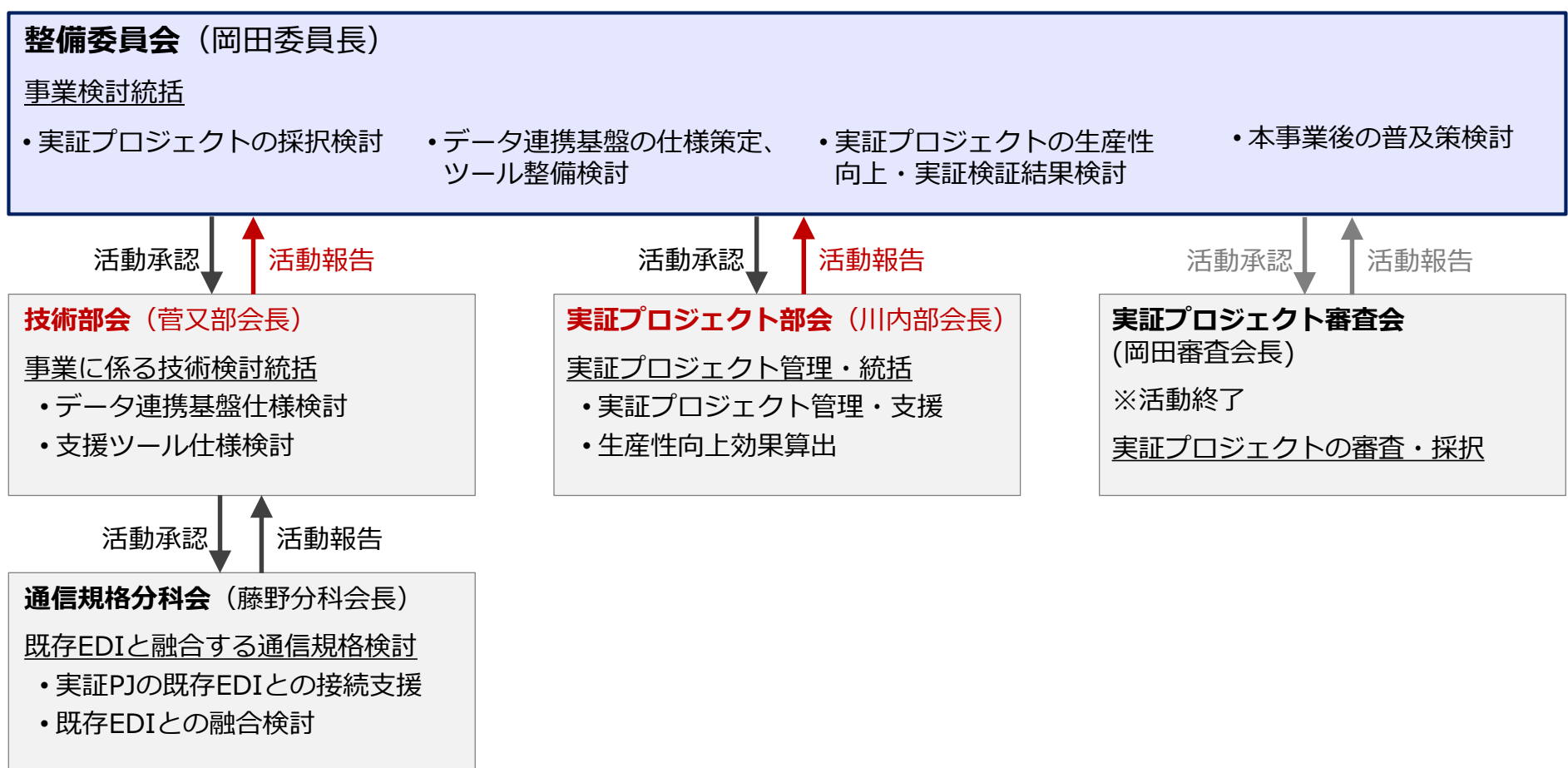


3. 部会活動報告

3. 部会活動報告

データ整備委員会にて検討すべき事項のインプットとなる事項については、技術部会及び実証プロジェクト部会にて具体検討を進めており、本日検討状況をご報告させていただきます。

本事業における組織体とそれぞれの役割



3. 部会活動報告

3-1. 技術部会報告

技術部会(通信規格分科会含む)の活動について、菅又部会長より報告いただきます。

第7回技術部会

(2017年8月8日)

議事次第

1. 事業進捗の報告
2. 実証検証仕様について
 - ・ 実証検証のメッセージ仕様
 - ・ 実証検証の連携仕様
3. 分科会活動報告
4. プロバイダ間・アプリ連携の実証検証について
5. 技術課題検討状況の報告
6. 今後の予定

8頁参照

実施成果・ 決議事項

- ・ **実証検証におけるメッセージ仕様、連携仕様整理結果の確認**
- ・ プロバイダ間・アプリ連携の実証検証計画の承認
- ・ 技術課題検討（実装メッセージ設計等）状況の承認
- ・ **企業間データ連携の実現イメージの確認**
- ・ **中小企業共通EDIと現EDIとの融合を目指す通信規格分科会 (8/8実施) の活動内容の承認**

9頁参照

10頁参照

今後の主な 検討事項

- ・ 整備すべき共通EDIシステムの仕様
- ・ 大企業との接続方針
- ・ 既存業界標準仕様との接続

3. 部会活動報告

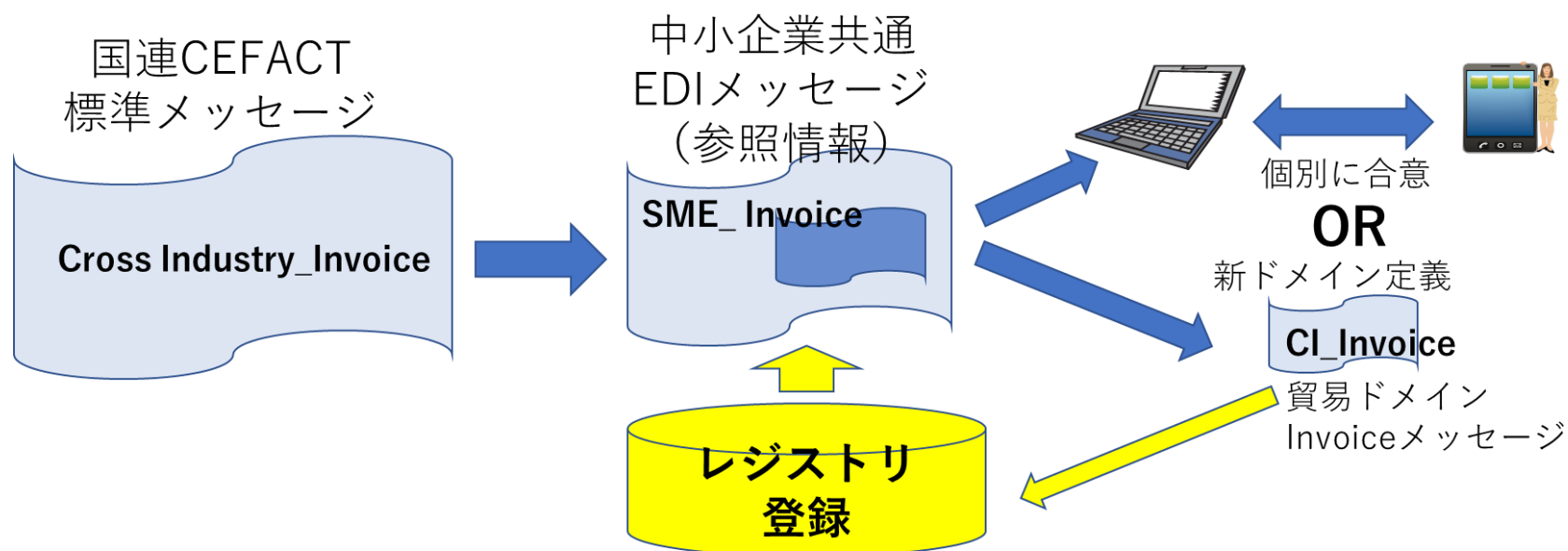
3-1. 技術部会報告 実施内容

技術部会では、業界横断EDIメッセージ設計ツール、レジストリ管理システム、データ連携ITツール（テスト環境）の開発を行い、実証プロジェクトに提供しました。

各実証プロジェクトからの提案を検討・分析し、実証検証仕様（メッセージ仕様、連携仕様）を取りまとめてドラフト版として公開しました。

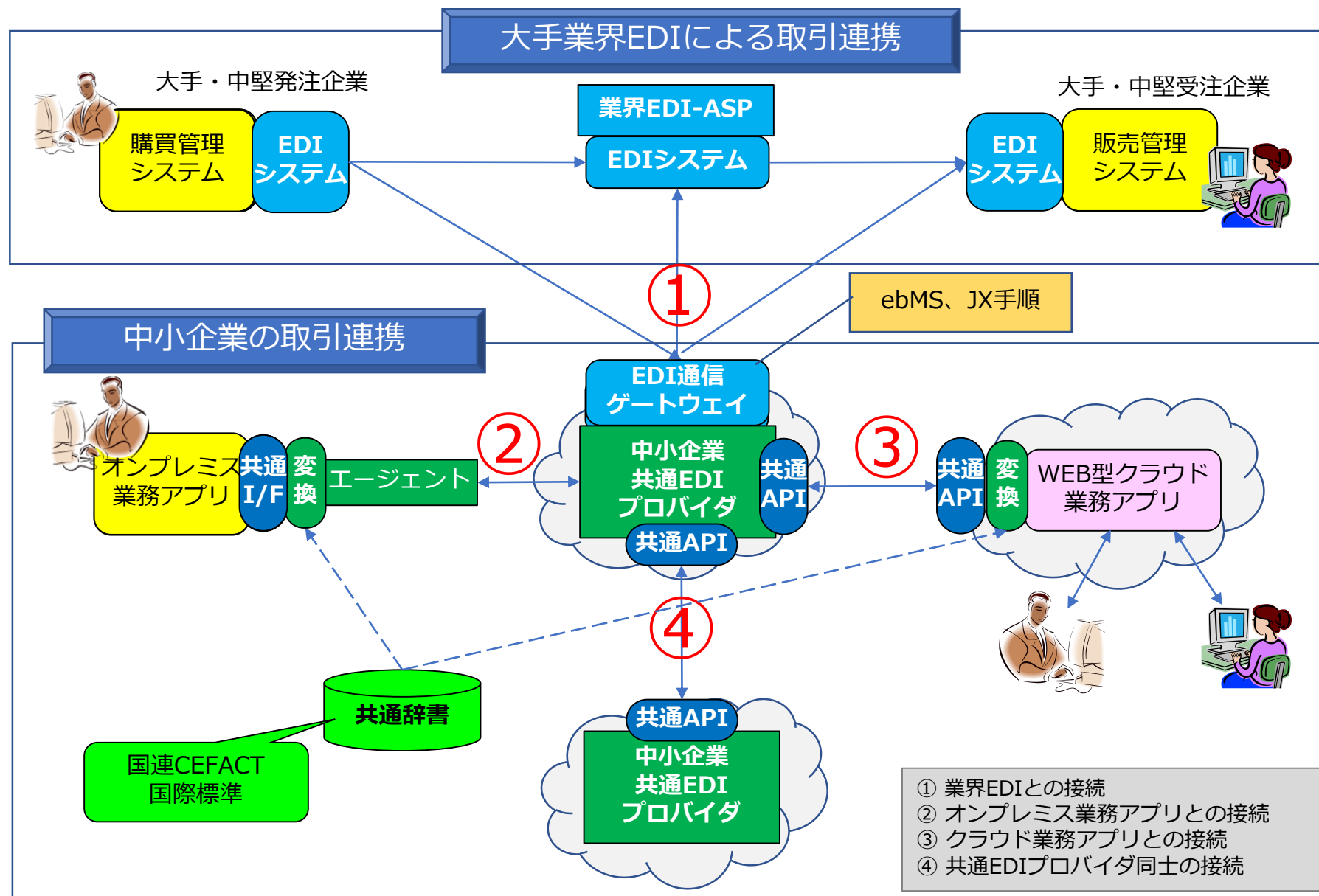
メッセージ仕様については、前述のレジストリ管理システムに登録し、利用者が参照可能となっております。新規のメッセージのレジストリへの登録手順イメージを下図に示します。

レジストリへの登録手順イメージ



3. 部会活動報告

3-1. 技術部会報告 企業間データ連携の実現イメージ（本事業完了時）



3. 部会活動報告

3-1. 技術部会報告 通信規格分科会 成果イメージ

通信規格分科会では、中小企業共通EDIと現EDIとの融合を目的とし、前図「①業界EDIとの接続」についての検討を進めています。

成果物として、3つの成果を予定しており、これらの成果を今後の普及に向けた検討の基礎材料として活用する予定です。

成果物と成果の概要

成果1

実証プロジェクト
の現EDIとの融合に
向けた課題と今後

実証プロジェクトにおける現EDI
との接続に関する課題解決の支援

成果2

現EDIの課題につい
ての調査研究

中小企業が現EDIを導入するた
めに必要な作業及び課題を把握

成果3

データ連携プラッ
トフォーム実装ガ
イドライン

中小企業共通EDIシステムと
現EDIを接続する際の要件を定義

- ✓ 普及促進に向けた課題検討の際の基礎データとして成果を活用
- ✓ 中小企業共通EDIと現EDIとの接続に際しガイドラインとして成果を活用

3. 部会活動報告

3-2. 実証プロジェクト部会報告

実証プロジェクト部会の活動について、川内部会長より報告いただきます。

第6回実証プロジェクト部会 (2017年8月4日)

議事次第

1. 事業進捗の報告
 - ・ 事業全体概況
 - ・ 実証プロジェクト概況
2. 普及に向けた検討状況の報告
 - ・ 実証プロジェクトの普及計画紹介
 - ・ 普及検討計画
3. 普及モデル分科会の立ち上げ審議
4. データ連携ITツール/コンテキサス デモ
5. 事務局からの共有事項
6. 今後の予定

実施成果・ 決議事項

- ・ 実証プロジェクトの普及計画の内容確認（実証PJのプレゼンテーション）
- ・ 普及分科会立ち上げの承認（※普及「モデル」に限定しない検討をするものとして合意）
- ・ 実証支援ツール（データ連携ITツール/コンテキサス）の動作（デモ）確認
- ・ プロバイダ間・アプリ間連携実証検証の進め方について承認

今後の主な 検討事項

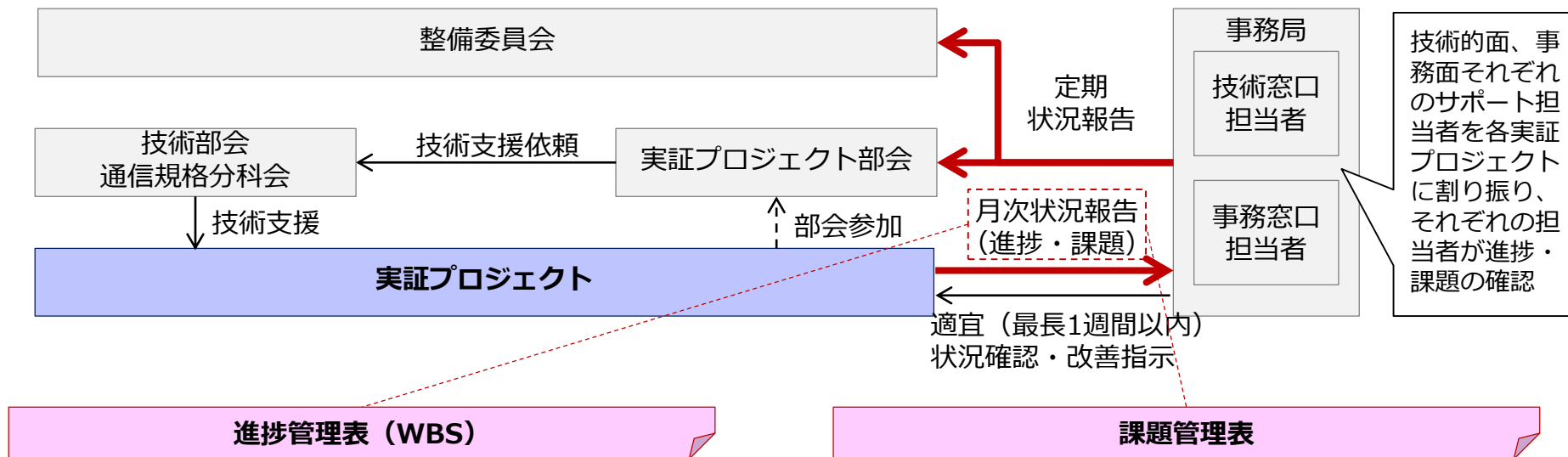
- ・ 普及課題の整理、普及施策の策定 ⇒ （案）普及部会にて検討
- ・ 実証プロジェクトの実証検証の状況・結果検討
- ・ 実証プロジェクトの事業終了後の自走化
- ・ プロバイダ間・アプリ間連携の実証検証の状況・結果検討

3. 部会活動報告

3-2. 実証プロジェクト部会報告 実証PJの進捗・課題確認方法

事務局では、実証プロジェクトから一律で月次の進捗状況・課題状況定期報告を受けるとともに、各実証プロジェクトに担当をつけ、各担当者が適宜状況確認をすることで、各プロジェクトの状況を評価・判断しています。その情報を踏まえ、次頁にて実証プロジェクトの概況を報告いたします。

実証プロジェクトに対するサポート体制



進捗評価（3段階評価）

PJの進捗を確認し、進捗状況や後続スケジュールへの影響等を踏まえ、以下の3段階で進捗を評価しています



遅延なし、または数日以内の遅延



遅延あり。後続への遅延影響がなく、全体として2週間以内の遅延



遅延あり。後続への遅延影響がある、または、全体として2週間以上の遅延

遅延PJ以外も含め、最長でも1週間以内の状況確認を行い、状況認識を最新化しています

課題評価・確認

PJで管理する課題のうち、事務局との共同検討が必要な課題をPJの報告事項とし、課題を検知・課題へ対応しています

実証PJ内で管理している課題

事務局が
共同検討する
課題

事務局共同検討課題の定義

- ✓1週間以上の遅延原因の課題
- ✓PJ内で解決できない課題
- ✓他PJに影響を与える課題
- ✓その他事務局に報告・相談したいこと

3. 部会活動報告

3-2. 実証プロジェクト部会報告 実証プロジェクト概況（1/2）

北海道PJ、水インフラPJに進捗遅延が発生しており、詳細状況確認の上、遅延解消に向けた施策を講じています（次頁詳細）。

その他プロジェクトについては大きな遅延はなく、今後も密に連携を取りつつ計画を支援して参ります。

☀️ 遅延なし ☁️ 遅延あり(後続影響なし) 🌧️ 遅延あり(後続影響あり)

PJ No.	PJ通称	進捗の状況		課題の状況		
		状況	補足	PJ内管理している 未完了課題数	左記中、事務局が 共同検討する課題数	補足
1	水産	☀️	スケジュール見直し。ほぼ遅延なし	9	5	インドネシアでの実証に伴う課題、技術的な課題を対応中
2	北海道	🌧️	実証企業変更等の影響により遅延、 <u>9月末目途にリカバリ予定</u>	2	1	<u>実証企業が確定したため、その他遅延解消に向けた課題解決を行う</u>
3	大阪	☀️	ほぼ遅延なし。開発の一部は遅延するも問題ない見通し	14	6	メッセージ辞書・ツールのエラー解消等の課題は事務局が対応する必要あり
4	貿易	☀️	遅延なし 一部テーマで実証を開始	3	3	実証のうち一部のスケジュール見直しが発生 事業全体に影響はなし
5	業務品	☀️	スケジュール見直し。ほぼ遅延なし	3	3	事務面では実証企業追加に伴う変更契約 手続き開始が必要
6	豊田	☁️	一部の開発に遅延するも後続影響なく、順次解消を予定	10	0	課題の一部に受発注企業との詳細計画が 定まっていないとの報告有
7	碧南	☁️	一部遅延するも後続影響なく、 順次解消を予定	5	4	事務局フォローの上、課題の対応が必要
8	サービス業	☀️	進捗ほぼ遅延なし	7	0	EDIプラットフォーム仕様の課題対応に関しては 事務局フォローが必要な状況
9	自動車	☁️	一部スケジュールが遅延 8月末目途に遅延解消を予定	0	0	5件の課題を解消し、課題なし
10	多摩	☀️	スケジュール見直し。ほぼ遅延なし	4	4	事務面では開発体制変更に伴う変更契約 手続きが必要
11	水インフラ	🌧️	全般的に遅延中。 <u>検証タスクを平行するなど遅延解消策を計画中</u>	10	0	<u>進捗・課題確認頻度を上げ、事務局含め 各種課題を随時消込する</u>
12	静岡	☀️	スケジュール見直し。ほぼ遅延なし	4	3	プラットフォーム間連携実証など、事務局で対応 が必要な課題あり

次頁にて遅延状況詳細

3. 部会活動報告

3-2. 実証プロジェクト部会報告 実証プロジェクト概況（2/2）

北海道PJ、水インフラPJについて進捗遅延が報告されています。

現在、遅延状況・理由を特定し、事務局対応も含めた対応策を定め、9月末までには遅延回復する見通しです。

北海道PJ

PJの概要・特徴	北海道の食品小売卸事業者 の食品、酒等の受発注を対象とした実証事業。実証には多くの北海道内の取引先（中小企業）を抱える 大手小売業者が参加 している。クラウド型の販売管理等業務アプリケーションも含む 共通EDIパッケージを提供
遅延状況・理由	実証参加企業のうち1社が従来より業界EDI標準を利用していたが、当PJの計画ではその点について特に検討はなかった。実証参加企業のEDI対応方法の認識違いで、事務局との確認・調整など、諸々の打合せが停滞したため、進捗が遅延することとなった。
対応策	最終的に費用・スケジュール的にPJの推進が難しくなるため、当該企業に事情を説明しご納得いただいた上で、早急に代替りの企業を探し、当PJの基本的な枠組みは変更せず一部企業を変更することで対応することとした。現在代替りの企業が確定し、遅延を解消すべく急ピッチで調整を進めているところである。
今後の見通し	2017年9月末を目途に、進捗遅延を解消 する見込み。 尚、業界EDI標準と中小企業EDIとの接続については重要なテーマであるため、当PJとは別に当事業内共通のテーマとして継続して検討を進める。

水インフラPJ

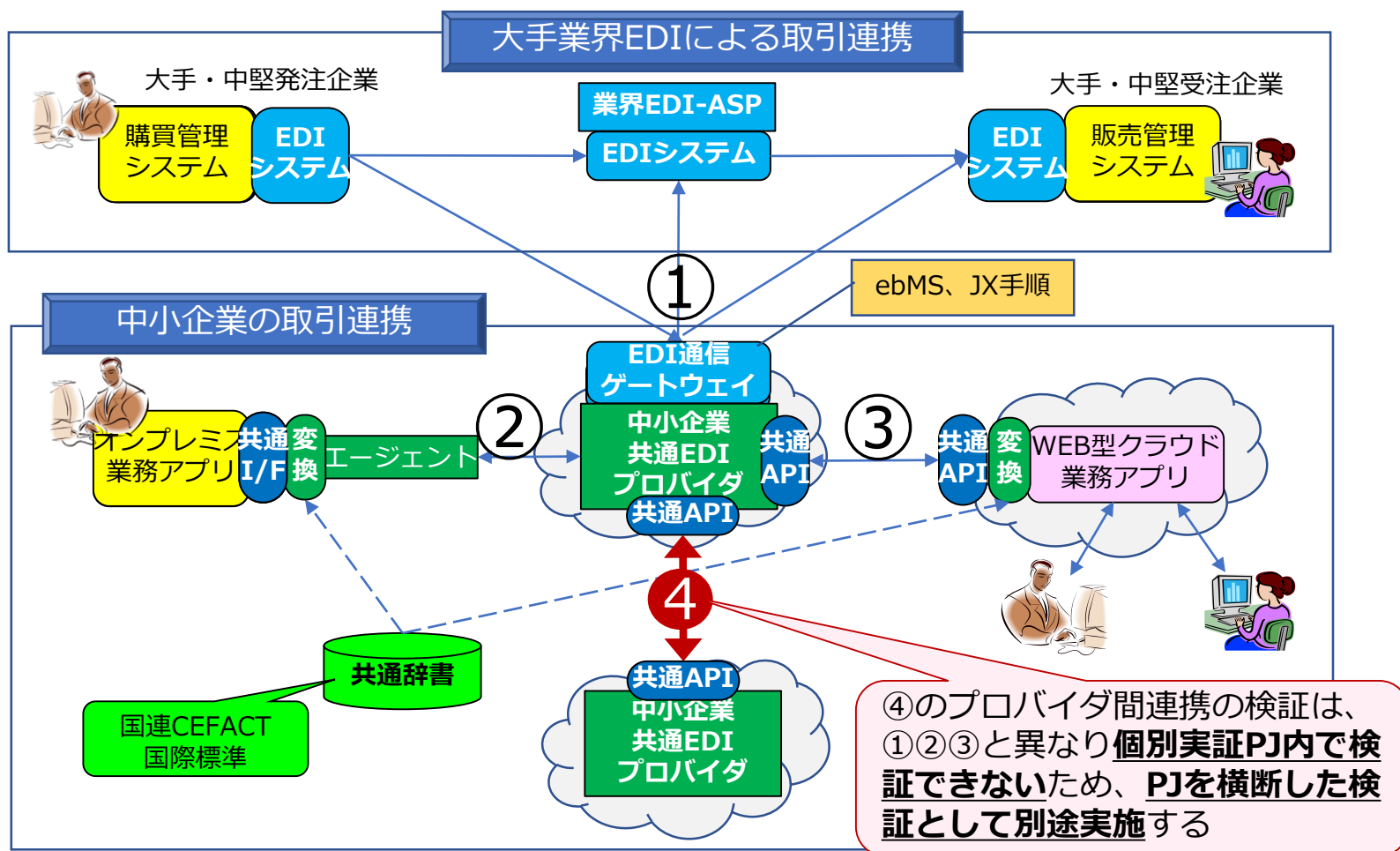
PJの概要・特徴	水インフラ業界のプラント企業/中小企業間の薬品取引 における受発注を対象とした実証事業。共通EDIと上下水道の情報を包括的に管理する 水インフラ業界向けクラウドシステムと連携 。IoTセンサーデータとの連携、自動取引や蓄積されたデータの利活用を検討
遅延状況・理由	実証参加企業の業務フロー見直しに伴う要件整理が当初想定より複雑化、要件整理に時間を要する事になった。これら収束に個別企業毎に対応した事で、更に状況が複雑化し進捗が大幅に遅延する事になった。加え、参加企業間のIT適用化度合にレベル差があった事も整理を困難化させた。
対応策	遅延解消に向けて、 体制を強化し週次で進捗を確認すること で、要件整理の加速と合意形成をスピーディに実施する。また、実証システムの開発については先行して開発可能な部分の洗い出しを行い、実証検証と開発を並行して作業に着手する。
今後の見通し	2017年8月末～9月初まで集中的に実証参加企業間の合意形成を目的とした打合せを設けている。実証システムの先行開発の実施を踏まえ、 進捗解消計画を策定、9月末を目途に遅延解消 する。

3. 部会活動報告

3-2. 実証プロジェクト部会報告 プロバイダ間連携実証検証（1/2）

共通EDIプロバイダと業界EDIとの接続（①）、オンプレミス業務アプリとの接続（②）、クラウド業務アプリとの接続（③）については、個別実証プロジェクトにおいて実証検証を行ないますが、実証プロジェクトを横断した検証が必要な共通EDIプロバイダ同士の接続（④）については、別途切り出した取り組みとして実証検証を行ないます。

企業間データ連携の実現イメージ（本事業完了時）におけるプロバイダ間連携実証の位置づけ

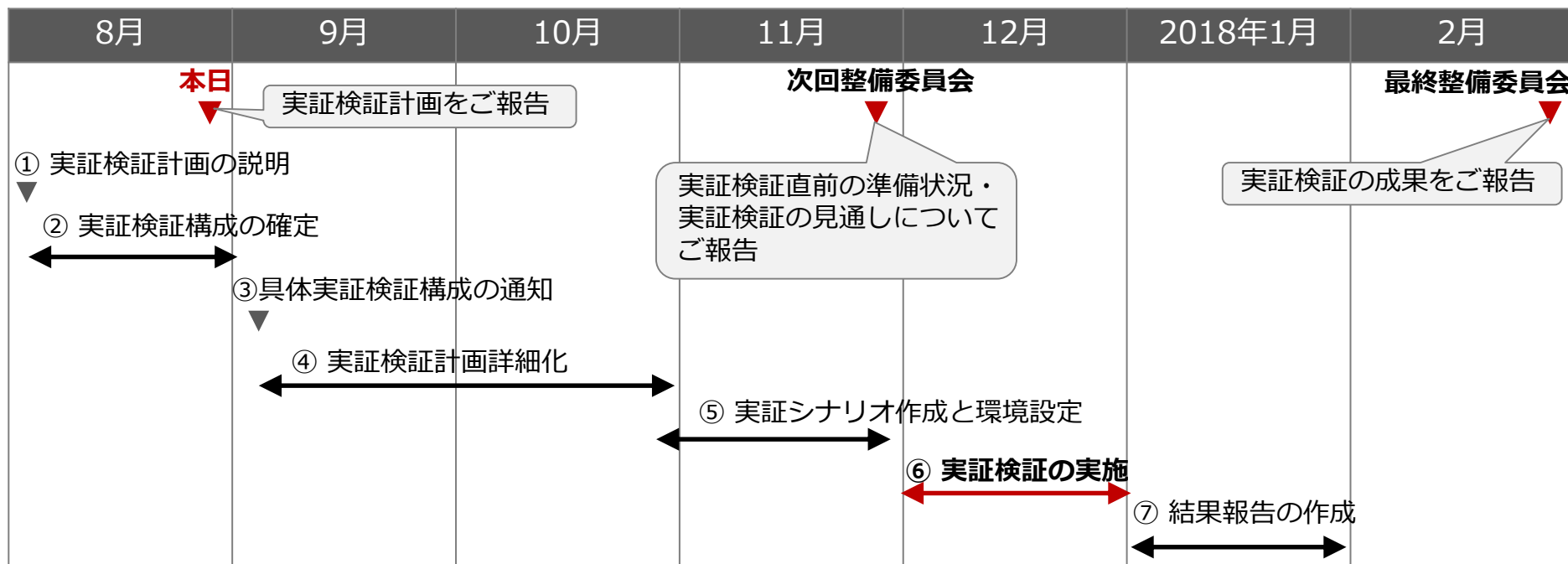


3. 部会活動報告

3-2. 実証プロジェクト部会報告 プロバイダ間連携実証検証（2/2）

プロバイダ間連携の実証検証は、次のスケジュールでの実施を計画しています。

次回の整備委員会では、実証検証直前の準備状況・実証検証の見通しについてご報告いたします。



タスク・マイルストーン	内容
① 実証検証計画の説明	プロバイダ間連携の実施計画（上図）について、実証プロジェクトへ説明
② 実証検証構成の確定	具体的な実証検証の構成（対象プロジェクトの選出）を検討し確定
③ 具体実証検証構成の通知	確定した実証検証構成を実証プロジェクトへ通知
④ 実証検証計画詳細化	関連企業と事務局にて、実証検証の計画について詳細化（環境、実証範囲、等）
⑤ 実証シナリオ作成と環境設定	実証検証のテストシナリオ、テスト環境及びテストデータを作成
⑥ 実証検証の実施	実証検証を実施
⑦ 結果報告の作成	実証検証の結果をもとに報告書を作成

4. 普及に向けた課題の提案

本事業の3つの目的とその成果見込み

4. 普及に向けた課題の提案 本事業の3つの目的とその成果見込み

本事業には3つの目的があります。目的②③については、技術部会・実証プロジェクト部会の検討にて一定の成果が出る見込みですが、普及に関する目的①についても成果が求められています。これら目的達成に向けた、主な課題についてご意見をいただきたいと思います。

本事業の3つの目的とその主な成果見込み

目的① 本事業の継続的な成果普及体制の構築・普及計画の立案

ターゲットとなるユーザーへの訴求

- ✓ 実証プロジェクトを通じた現場の普及課題洗出と各実証プロジェクトの普及促進
- ✓ ユーザーのセグメンテーション、ターゲティングによる潜在ユーザーへの効果的なアプローチ方針策定
- ✓ 支援機関等によるターゲットユーザーへのアプローチ・支援・推進体制の構築
- ✓ 普及に向けたロードマップ策定

共通EDIシステムの付加価値向上

- ✓ 共通EDIシステムの金融との連携実証による高付加価値化の方向性創出
- ✓ 共通EDIシステムのIoTとの連携実証による高付加価値化の方向性創出
- ✓ その他バックオフィス業務との連携の方向性創出
- ✓ 付加価値向上に向けたロードマップ策定

目的② 共通EDIシステムの仕組みの具体化

- ✓ 共通EDIシステムの仕様策定
 - ✓ 実証プロジェクトを通じた業種間ギャップを埋める共通EDIメッセージ仕様策定
 - ✓ 業界標準EDIとの連携方針策定

目的③ 中小企業の生産性向上の効果実証

- ✓ 実証プロジェクトを通じた現状の業務負荷調査結果と共通EDI利用による生産性向上効果の算出
- ✓ 中小企業全体等、効果が波及した際の生産性向上推計

4. 普及に向けた課題の提案 目的①の成果見込み（1 / 2）

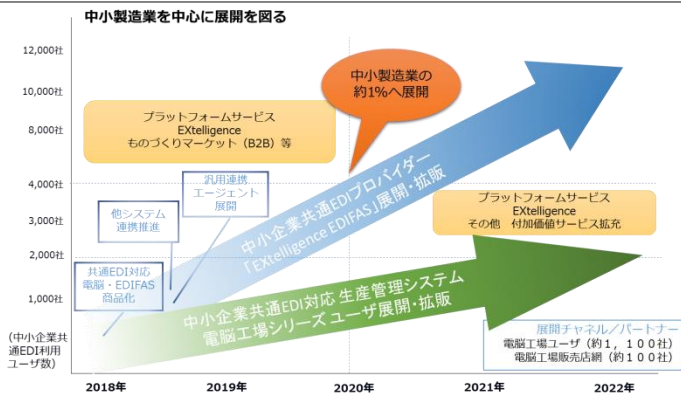
「① 本事業の継続的な成果普及体制の構築・普及計画の立案」の成果については、「ターゲットとなるユーザーへの訴求」「共通システムの付加価値向上」の二つの軸で成果を見込んでいます。

目的① 本事業の継続的な成果普及体制の構築・普及計画の立案

ターゲットとなるユーザーへの訴求

- ✓ 実証プロジェクトを通じた現場の普及課題洗出と各実証プロジェクトの普及促進

（例）大阪PJ（エクス社）の普及ロードマップ



- ✓ ユーザーのセグメンテーション、ターゲティングによる潜在ユーザーへの効果的なアプローチ方針策定

（例）実証PJを足がかりにした普及アプローチ

地域セグメンテーション

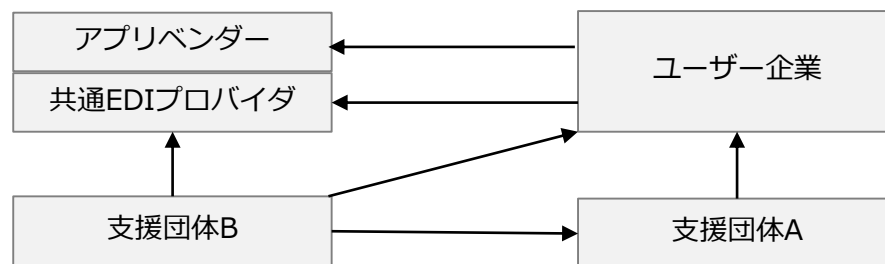
⇒ターゲット：多摩、静岡、豊田・・・

業種セグメンテーション

⇒ターゲット：製造業、流通・小売業・・・

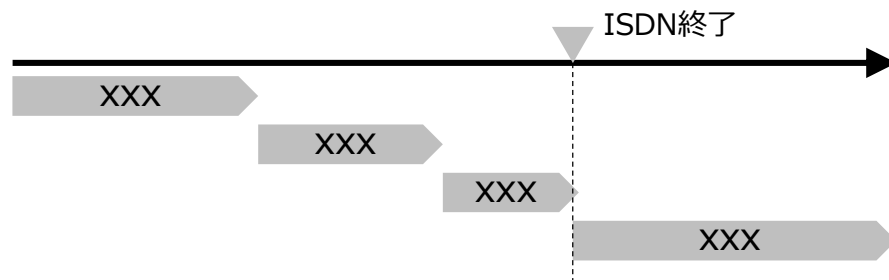
- ✓ 支援機関等によるターゲットユーザーへのアプローチ・支援・推進体制の構築

EDI導入支援体制（イメージ）



- ✓ 普及に向けたロードマップ策定

普及に向けたマイルストーンとロードマップ（イメージ）



4. 普及に向けた課題の提案 目的①の成果見込み（2 / 2）

「① 本事業の継続的な成果普及体制の構築・普及計画の立案」の成果については、「ターゲットとなるユーザーへの訴求」「共通システムの付加価値向上」の二つの軸で成果を見込んでいます。

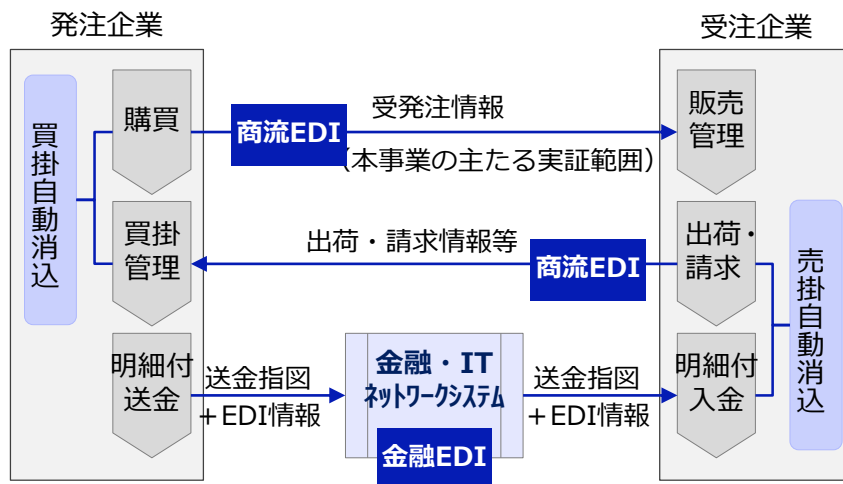
目的① 本事業の継続的な成果普及体制の構築・普及計画の立案

共通システムの付加価値向上

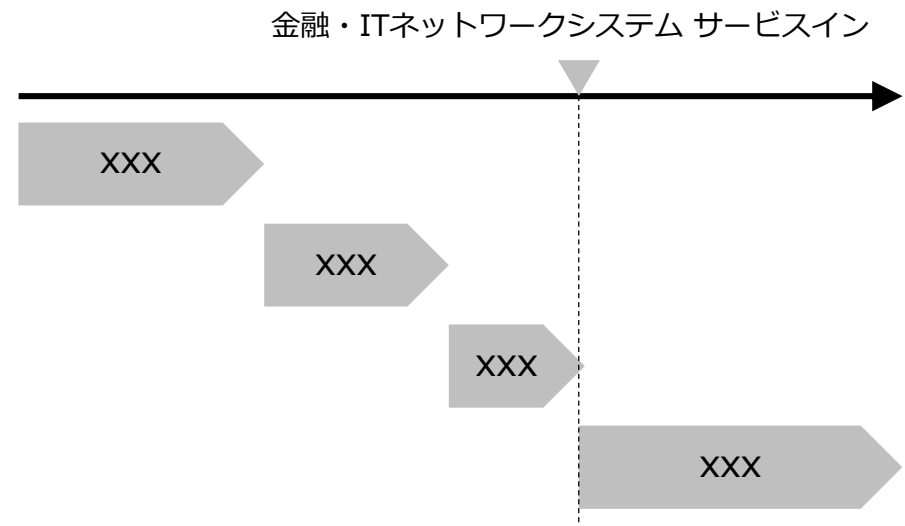
- ✓ 共通EDIシステムの金融との連携実証による高付加価値化の方向性創出
- ✓ 共通EDIシステムのIoTとの連携実証による高付加価値化の方向性創出
- ✓ その他バックオフィス業務との連携の方向性創出

- ✓ 付加価値向上に向けたロードマップ策定

（例）金融EDIと連携して受発注から決済まで「つながる」仕組み



付加価値向上のマイルストーンとロードマップ（イメージ）



普及に向けた課題

4. 普及に向けた課題の提案（1 / 4）

先の目的を見据えた成果を、本事業にて確実に出すための課題について、次のように考えております。委員の皆様にご意見を頂きたくお願い致します。

「① 本事業の継続的な成果普及体制の構築・普及計画の立案」に向けた課題

ターゲットとなるユーザーへの訴求

- A) どのようなアプローチがユーザーへの普及の切り口として有効か
 - ✓ 共通EDIシステムに対応したERPパッケージやクラウドアプリケーションなど、多くのベンダーに製品化・普及を進めていただくために、どう働きかければいいのか
 - ✓ 共通EDIシステムの導入支援者をどのようにして育成するか
 - ✓ 大企業へ訴求することが、中小企業への共通EDIシステムを普及させる有効な手段となるのではないか
- B) どのような普及推進体制を構築するか
 - ✓ 支援機関（商工団体、土業等の専門家、金融機関、行政等）がどのように組めば、それぞれの強みを生かした強力な推進体制となるか
- C) その他、普及のための工夫
 - ✓ 仕様を満たしたツールの相互接続性の担保のために、認定機関を立ち上げ、仕様の認定を行なってはどうか

4. 普及に向けた課題の提案

【参考】普及展開チャネルの想定（中間報告資料より）

展開チャネル	チャネル具体例	
地域チャネル	地方自治体	
	商工会議所等	
	地域中小企業団体	
業界チャネル	自動車業界、自動車部品業界、製造業界、 流通業界、サービス業界 等	
企業規模チャネル	中小企業	ITコーディネータ協会
	大企業	JISA / EDI-TF
		個別大企業
ベンダーチャネル	ベンダー会	CSAJ
		クラウドサービス推進機構
	個別ベンダー	
新規取組チャネル	金融機関	
	IoT推進団体 / IVI	
ユーザーチャネル	ユーザー会	

4. 普及に向けた課題の提案（2 / 4）

先の目的を見据えた成果を、本事業にて確実に出すための課題について、次のように考えております。委員の皆様にご意見を頂きたくお願い致します。

「① 本事業の継続的な成果普及体制の構築・普及計画の立案」に向けた課題

共通EDIシステムの付加価値向上

- A) 共通EDIシステムの金融との連携による高付加価値化の方向性をどう考えればよいか
 - ✓ 金融との連携による共通EDIシステム付加価値向上について、どのような方向性で取り組めばよいか
 - ・ POファイナンス ※
 - ・ 金融EDI（金融・ITネットワークシステム）
 - ・ その他金融の取り組み
- B) 共通EDIシステムのIoTとの連携
 - ✓ IoTとの連携による共通EDIシステム付加価値向上について、どのような方向性で取り組めばよいか
- C) その他付加価値向上の方向性
 - ✓ その他、共通システムの付加価値向上となる取り組みは何が考えられるか

※ PO（Purchase Order）ファイナンス

：電子記録債権を活用することで、従来は困難だった受注時点からの担保融資を行なう仕組み

4. 普及に向けた課題の提案（3 / 4）

先の目的を見据えた成果を、本事業にて確実に出すための課題について、次のように考えております。委員の皆様にご意見を頂きたくお願い致します。

「② 共通EDIシステムの仕組みの具体化」に向けた課題

A) 整備すべき共通EDIシステムの仕様

- ✓ 共通EDIシステムの標準仕様について、次頁の仕様を案として検討中
- ✓ 実証プロジェクト以外のシステムとの相互接続性確保や、共通EDIシステム仕様決定工程の透明性確保のため、早期に共通EDI仕様についてパブリックコメントを募集してはどうか
- ✓ 共通EDIシステムの仕様をオーソライズするためにはどうすればよいか

B) 仕様規格の普及・維持管理を行なう体制

- ✓ 仕様規格の普及・維持管理のため中心的な役割を担う組織が必要である
本事業の終了後であっても、受益者や関係組織の一定の負担により、当該組織が継続的に普及・維持管理の役割を果たせるような枠組みが作れないか（例えば、認定手数料、賛助費、など）

C) 既存業界標準仕様との接続

- ✓ 既存の業界EDI標準を尊重し、共通EDIシステム仕様との接続を進めるためには、どのような工夫があり得るか
- ✓ 大手の業界EDI標準団体と協議するために、本事業で共通EDIシステム仕様のEDI標準団体を確立できないか

4. 普及に向けた課題の提案 EDI共通システムの仕様（案）

共通EDIシステムの仕様（案）

- ✓ メッセージ記述は、国連CEFACTに準拠したXML形式とする。また文字コードはutf-8とする
- ✓ 情報項目は、電文を形成する際の必須項目を共通項目として定義すると共に、受発注、生産管理、輸出入手続き、品質・トレーサビリティ情報管理、金融EDI連携など、用途ごとに追加する情報項目をサブセットとして定義する
- ✓ これまで用いられていない情報項目を用いる際は、共通EDIシステム仕様の維持管理機関に登録し、追加・更新ごとに版管理を行なうことで、相互接続性を確保する
- ✓ 通信規格はインターネットの利用を前提とし、既存EDIと共通EDIの接続はebMS、またはJX手順でゲートウェイ経由サーバー間接続をする。
- ✓ 詳細は、本事業においてITコーディネータ協会が策定・公表している以下の文書を参照
 - 中小企業共通EDI仕様v3.1_rev9a_draft解説書
 - 中小企業共通EDI実装ガイドラインv2.0_draft
 - 中小企業共通EDIメッセージガイドラインv3.1rev9a_draft
 - 中小企業共通EDI仕様メッセージ辞書・BIE表v3.1rev9a_draft
- ※ 大企業及び既存業界標準との相互接続の働きかけや、実証プロジェクト参加企業以外の共通EDIシステム仕様の適用を促すために、早期に仕様を公表する必要がある
- ※ 共通EDIプロバイダとクラウドアプリ間接続、共通EDIプロバイダ間接続は国際的な相互接続性に配慮した通信規格を今後技術部会で審議し、今後の方向性を定める予定

4. 普及に向けた課題の提案（4 / 4）

先の目的を見据えた成果を、本事業にて確実に出すための課題について、次のように考えております。委員の皆様にご意見を頂きたくお願い致します。

「③ 中小企業の生産性向上の効果実証」に向けた課題

A) 実証プロジェクトの実証検証

- ✓ 12の実証プロジェクトがそれぞれ計画通りに実証検証成果を出すために、どのような支援や工夫があり得るか

B) 実証プロジェクトの事業終了後の自走化

- ✓ 12の実証プロジェクトが、事業終了後にそれぞれ自走するために、どのような計画を心がければよいのか

C) プロバイダ間・アプリ間連携の実証検証

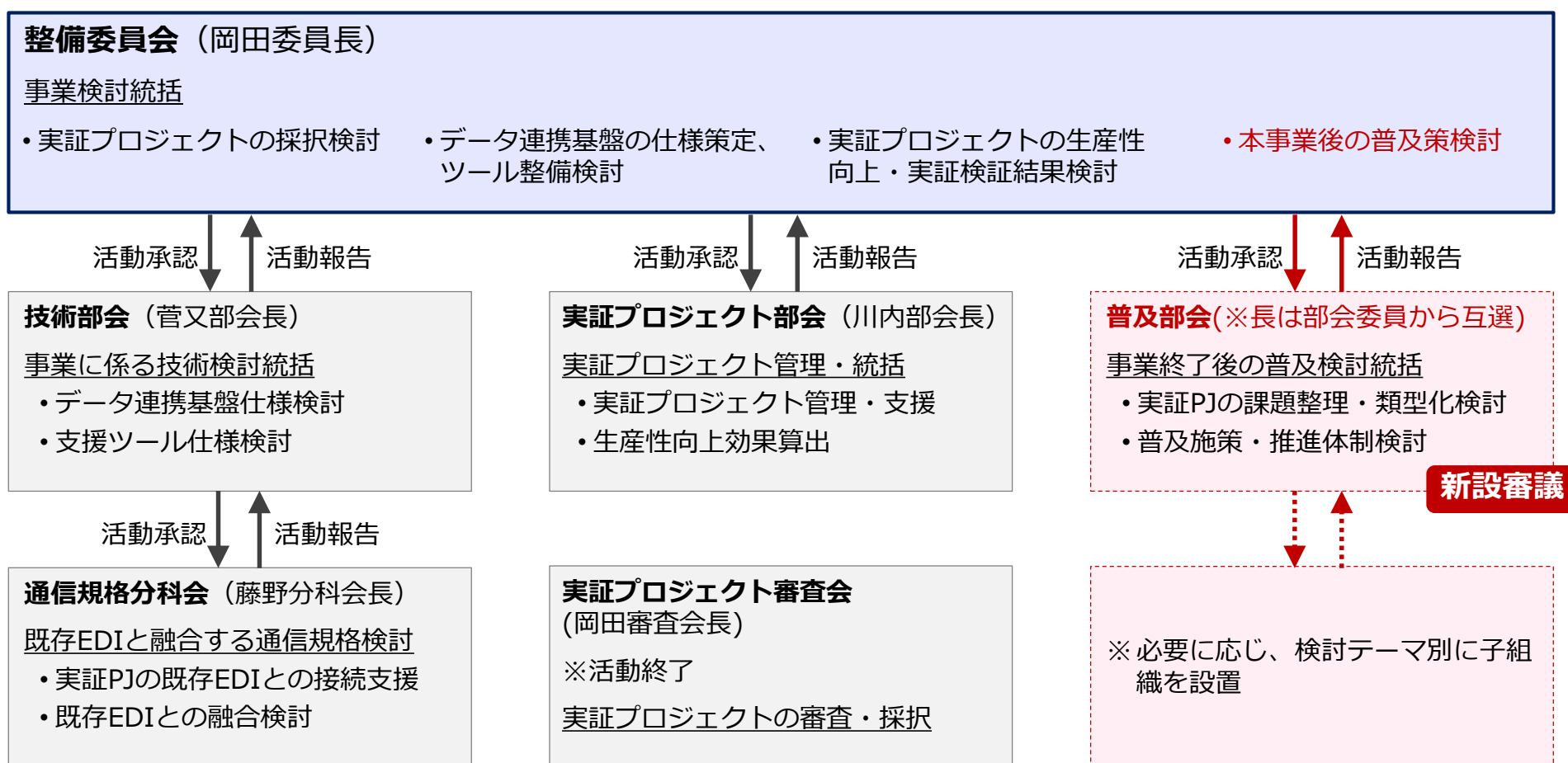
- ✓ 個別実証プロジェクトの検証以外に、プロジェクト横断の実証検証など、どこまで確認が必要か

5. 普及部会の立ち上げの提案

5. 普及部会の立ち上げの提案 部会の役割分担（案）

本事業後の普及検討に向けて、技術部会及び実証プロジェクト部会それぞれ検討を進めていますが、検討の範囲が12の実証プロジェクトからのボトムアップの課題に限定されてしまうため、より広範な普及計画を策定する専門部会として、別途「普及部会」が必要であると考え、本日部会立ち上げのご提案をさせていただきます。

本事業における組織体とそれぞれの役割



実証プロジェクトの地に足のついた課題意識を吸い上げ整理し、支援機関や業界団体等の代表をはじめとした整備委員会の委員及び有識者と、オールジャパンの体制で実効性のある普及計画を策定することを目的とします。

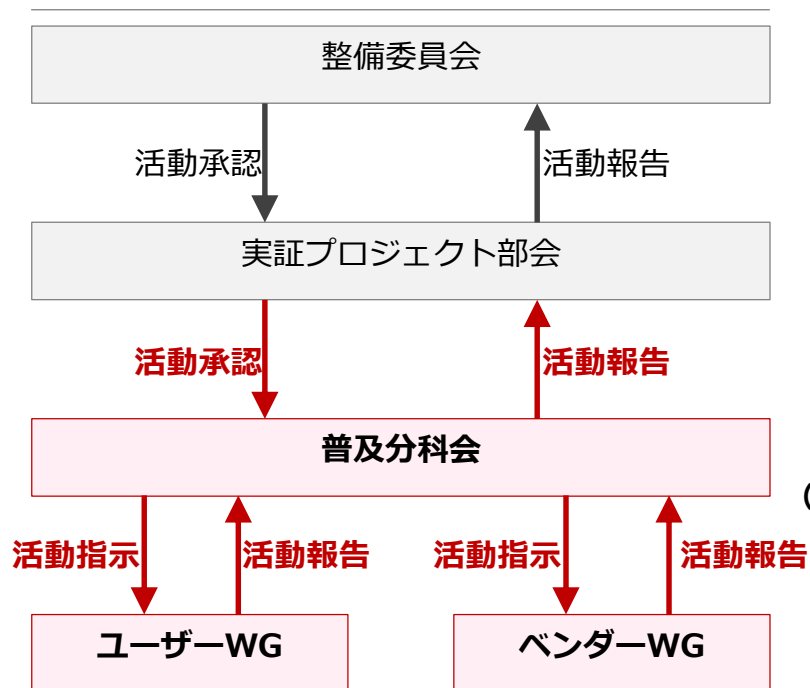
検討主体（案）



5. 普及部会の立ち上げの提案 組織の位置づけ（案）

普及検討組織立ち上げの構想は、去る8/4実証プロジェクト部会にて、実証プロジェクト部会配下の「普及分科会」として立案されましたが、実証プロジェクトに依存した検討に留まることなく「普及」を検討することができるように、「部会」の位置づけで、改めて立ち上げの提案をいたします。

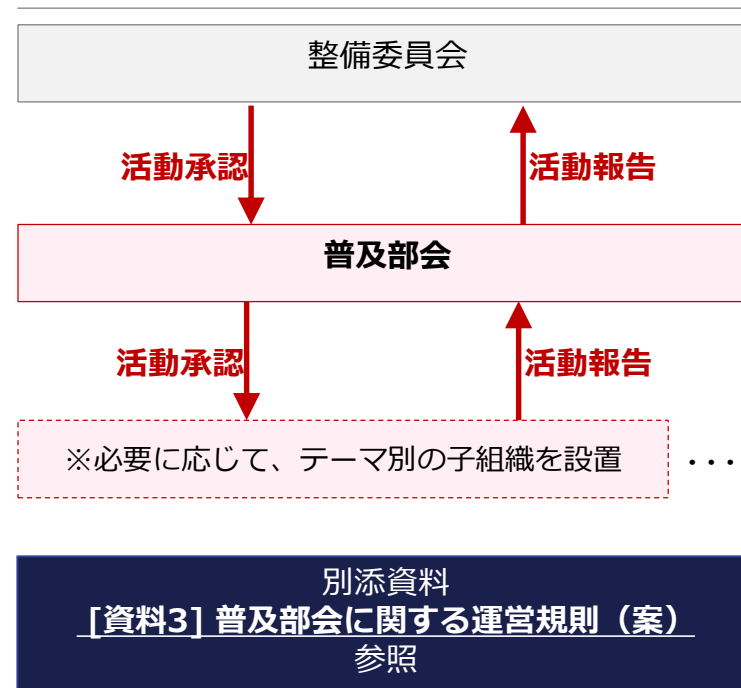
8/4実証PJ部会にて提示した新組織構成



普及分科会では、実証PJメンバーを中心に、地に足のついた普及課題を具体化・整理し、普及施策を検討

「部会」とし
普及検討の
スコープを拡大
(実証PJに閉じない検討)

本日審議したい新組織構成



普及部会では、**実証PJメンバーおよび有力関係者**にて、地に足のついた普及課題を具体化・整理し、**実現性・実効性の高い普及施策**を検討

5. 普及部会の立ち上げの提案 構成部会委員（案）

普及部会の部会委員（構成メンバー）は、整備委員会の委員、実証プロジェクトの代表者、その他有識者等にて構成する想定です。具体的な普及部会委員は、今後募集・調整を進め、委員長一任として決定させていただきたいと考えております。尚、部会長は、第1回普及部会にて、委員互選で決定いたします。

普及部会 部会委員リスト（調整中、イメージ）

#	氏名	所属
1	整備委員会 委員	⇒ ご相談させていただきます
2		
3		
4		
5	実証プロジェクト代表者	⇒ 全12プロジェクトへお声掛け
6		
7		
8		
9	その他有識者	⇒ 本事業の直接関係者以外からの参画も含め検討
10		
11		
...		

※普及促進に賛同する有志を適宜追加
是非事務局までご連絡下さい

後日、岡田委員長一任にて部会委員を決定

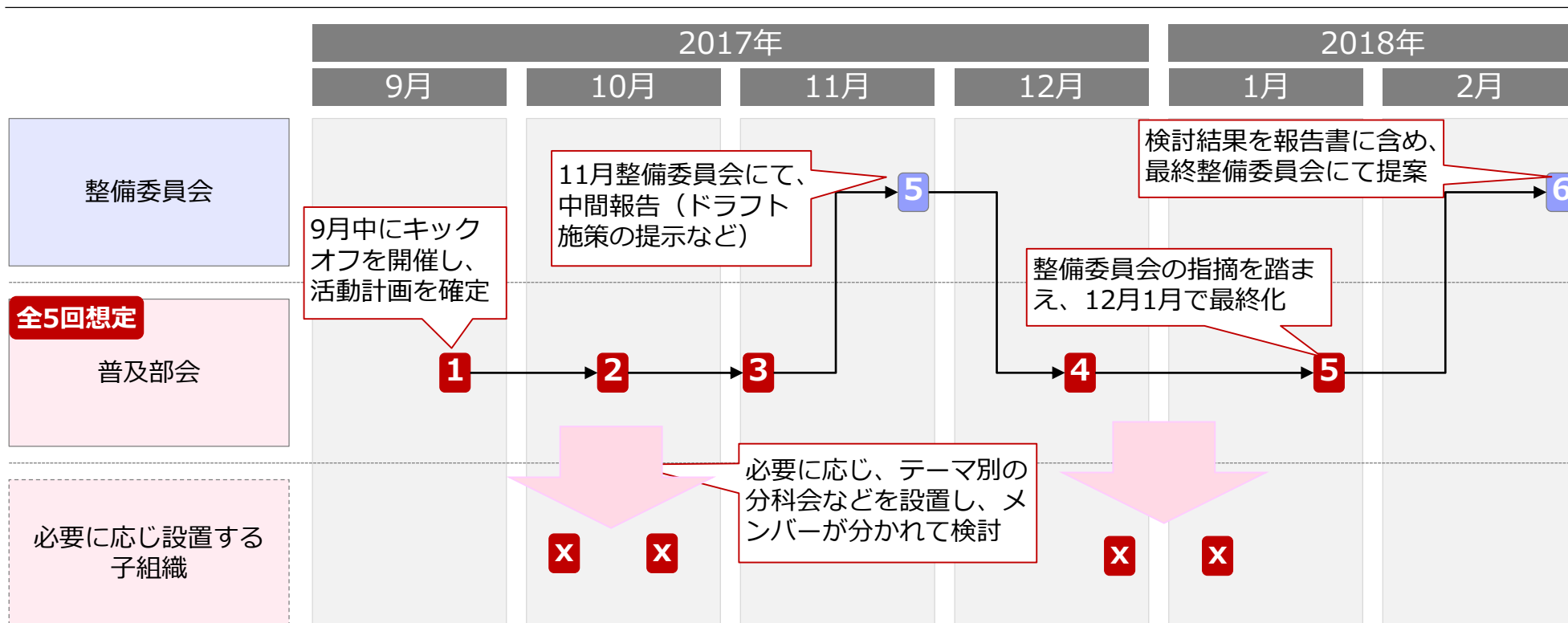
第1回普及部会にて、委員互選で部会長を選出

5. 普及部会の立ち上げの提案 スケジュール（案）

普及部会は、5回程度の開催を想定し、11月の整備委員会にて中間報告を考えております。

11月の整備委員会でのご指摘を踏まえ、更に検討を重ね、2018年2月の最終整備委員会へ普及計画を最終提案いたします。

普及部会 実施スケジュール（案）



6. 閉会

**次回、第5回整備委員会は
11月28日（火） - 11月30日（木）
の間に実施することを予定しております**

END
